

見る・聴く 子ども・保護者への初期対応の心得

日ごろの子どもの様子を知っておきましょう。

「いつもと違うな・・・」と感ずることが
できるためには、子どもの日常を知っている
かどうか大切です。

朝の健康観察のPoint

- 表情
- 顔色
- 声

最も子どもの変化を
キャッチできるのは
学級担任です。

こんな様子が見られたら・・・

【体に現れるサイン】

- 体調不良で遅刻、欠席が多くなってきた。
- 発熱が続いている。
- なんとなくしんどい等、不定愁訴を訴える。
- 吐き気、おう吐、下痢などが多く見られる。

【行動や態度に現れるサイン】

- それほどの体調不良でもないのに、保健室利用が増えてきた。
- 給食の量が以前より著しく減少または増加してきた。
- 学習意欲が低下している。
- 特定教科のある日にしばしば欠席・欠課が繰り返される。

【対人関係に現れるサイン】

- 友だちと離れ、一人であることが多くなってきた。
- 登校しても教室以外で過ごすことが多くなってきた。
- 他学年の子どもとばかり遊んでいる。
- ささいなことで急に泣き出したり、学級担任にまわりつこうとしたりする。

まずは、子どもの話をじっくりと聞きましょう。

不登校かな・・・と思ったら

電話で様子を聞きましょう

○ 気になったら、すぐに電話連絡を！

- ・ いきなりの家庭訪問は子どもにとって大きな負担となる場合もあります。

○ 対応が遅れることのないように注意！

正確な情報を集めましょう

家庭訪問までに学校でできる情報収集はなるべくたくさんしておきましょう。

- ・ 友人関係
- ・ 部活の様子
- ・ 学習状況
- ・ 給食の様子
- ・ 授業中の様子
- ・ 登下校の様子
- ・ 休み時間の様子
- ・ 欠席する前の様子

電話連絡のPoint 1

欠席の理由が病気や体調不良の場合、まずは、「〇〇さんの具合はいかがですか？」というようなやわらかい言葉がけから始めましょう。そして、「ほかに変わった様子はありますか？」「何か心配なことはありませんか？」など、相手の気持ちを考えて質問を試みましょう。

電話連絡のPoint 2

会話の中で、何らかの問題が訴えられた場合、まずはその情報提供に対し、素直にお礼を伝えましょう。そして、事実関係がはっきりしないときは、いったん預かる形をとり、折り返し回答するようにしましょう。安易な即答は初期対応のつまずきとなるケースがあります。

